

# 金沢・町名由来 「尾張町」

今回は尾張町です。尾張町と橋場町の境界付近に「石川県里程元標……」と書いた一本の標柱が立っています。ここを起点にして、石川県の里程、つまり距離がはじきだされています。東海道五十三次の起点が江戸の日本橋であったように、藩政時代の北陸路の起点は、南北とも尾張町の元標のところでした。参勤交代のときには、必ず前田の殿さまが大手門を利用しました。そしてこの里程元標のところで勢ぞろいし、隊列を整えて大樋まで行進するならわしになっていました。つまり金沢城の門前町だったわけです。天正11年、前田利家が金沢入城のとき尾張からついてきた町人たちが住んだことから尾張町の町名が生まれたといわれています。それまでは一帯を久保村といっていました。白山の金劔神社の分神を祭って氏神としたのが久保市乙剣宮です。いまの尾張町の一帯は久保市宮の境内として一面森林に囲まれていたそうです。こうして三百年近くも平和が続きますが、一向一揆討伐の名目で加賀に攻め入った信長の軍勢が片っぴしから民家を焼き払ってしまいます。このため久保市宮や境内の森林はことごとく焼き払われてしまい、枯れ木の林になったといわれています。それで、この辺を一時、枯木村といったことがあるそうです。そういえば、里程元標のすぐ近くにある橋を枯木橋といっているのは、その

名残かもしれません。久保市の宮は、その後、近江町へ移り、さらに卯辰山へ移されましたが、明治5年に新町の元のさやにおさまりました。でも敷地は昔に比べるとうんと狭くなりました。文豪、泉鏡花の生家もここにありました。45年6月の住居変更で、道路を挟んで旧の今町、尾張町の南部と味噌蔵町下中丁、味噌蔵町片原町、博労町、橋場町、中町の各一部が尾張町一丁目に、また上新町、下新町、主計町、尾張町の北部と橋場町、母衣町、博労町、下近江町、彦三二番丁、桶町、袋町、青草町の各一部が尾張町二丁目に町名変更されました。

今回は片町です。



市電がついた直後、尾張町・青草辻市場(近江町)方面を望む 自転車に乗る少年の姿も見られる 大正8(1919)

## 事務局だより

- 11月4日 理事会
  - ①諸江消防会館建設寄付金を200万円に決定
  - ②厚生事業の結果と予定報告
  - ③来年度の合同求人説明会について報告
  - ④棚割ソフトの実演と説明会について報告
- 11月7日 情報物流委員会 正副委員長会
  - ①機能要件に関する詳細調査の結果について
- 11月18日 情報物流委員会
  - ①詳細調査結果概要報告について
  - ②今後の進め方について
- 11月22日 第2回営業マンセミナー
  - 3次元棚割システム《SPACEMAN III》の説明・実演
- 12月1日 財務・金融委員会
  - ①運転資金転貸について
- 12月2日 近代化研究会
  - 上越ウイングマーケットセンター視察

- 12月5日 理事会
  - ①運転資金転貸について
  - ②新年互礼会について
  - ③団地内一斉清掃について
  - ④厚生事業の予定報告、新たに英会話教室開講
- 12月5日 情報物流委員会 正副委員長会
  - ①小委員会のメンバー選定について
- 12月14日 「厚生年金保険法の改正に伴う説明会」開催
- 12月15日 労務委員会
  - ①新入社員行事について
- 12月21日 広報委員会
  - ①次号について

### 阪神大震災お見舞について

1月19日(木)石川県より要請があり、組合として紙おむつ、生理用品(約100万円相当)を被災地へお見舞として緊急輸送いたしました。

# 金問屋センターニュース 1995. 1 No.61

協同組合 金沢問屋センター 金沢問屋町2丁目61番地 ☎37-8585 ●発行者/宗廣満夫



加賀友禅作家 百貫華峰 作 「鶴梅の図」

## 変化への基盤整備を

(協)金沢問屋センター 理事長 宗廣満夫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年の我が国は、細川内閣から羽田内閣、そして村山内閣へと替わる予想だにしない政局変化が起こり、年末には新進党の発足をみ、まさに政情不安定に推移した1年でありました。経済面では、ガットのウルグアイ・ラウンドの交渉が成功し、国際貿易問題は一定の成果が上がったと見えますが、国内経済はようやく大不況の底は打ったというもの、私ども流通業に携わる者としては、相変わらず不況の内に終わりました。

新しい年を迎え、政府の平成7年度予算案も決まり、年度内成立が見込まれるところから、本年こそは好況の目を見たいものであります。

さて、これからの流通業界を考える時、その環境は、規制緩和や価格破壊の進捗により、厳しさは一層増し、マルチメディアの普及で、社会が大きく変貌を遂げていく中で、各企業の変化が求められています。

組合事業においても、変化に対応するため、各委員会より提言のありました複合ビル、立体駐車場、共同物流センターの建設案については、今後の駅西開発が団地周辺にどのような影響を与えるのかを考慮に入れ、推進していかなければならないと考えております。

特に21世紀を目前に控え、県庁舎の駅西移転計画を機に団地、及び周辺地域が更なる発展を図っていくために、まず、交通網の整備が必要不可欠となってきますので

- ①浅野川堤防道路の間屋団地東口交差点より対岸の松寺町へ、団地より直線となる橋梁架設
- ②それに続く東山・内灘線に至るまでの道路
- ③及び、国道8号線 南新保交差点の立体化

について、建設計画促進を、関係当局へ働きかけていきたいと考えております。

本年は、組合員の皆様方と積極的に「対話」を行い、ご理解を得ながら、目標に向かって「行動」するよう頑張っている所存でありますので、各位のより一層のご協力を心からお願い申し上げます。



# '95 新年互礼会

恒例、協同組合金沢問屋センターの新年互礼会は1月4日午後2時より金沢流通会館パルスにおいて、来賓、組合員270名が参加して開かれた。

国歌斉唱に引き続き、宗廣理事長から挨拶があった。次いで谷本県知事、山出市長、奥田衆議院議員、沓掛参議院議員、北村商工会議所副会頭より祝辞を賜り、宇野県議会議員の発声の下に乾杯を行い祝宴に移った。

盛宴の中、嶋田県商工課長の音頭で万歳三唱し、本年も盛況の内に終了した。



# 年男大いに語る



## 亥年に思う

(株)小堀酒造店  
会長 小堀 甚九郎

明けましておめでとうございます。

申酉の借金を戌亥で返す、と古来から言われている亥年です。農業国であった頃、永年の経験から、申酉年は天候に恵まれず、戌亥年は比較的天候に恵まれて豊作になることが多かったということでしょうか。その諺のとおり一昨年酉年は冷夏長雨で大変な不作で米を輸入するやらてんやわんやの騒ぎになったことは皆様ご存知のとおりです。それが昨年は一転して夏場は晴天続きで、一部では水不足をきたす等混乱もありましたが、日照りに不作なしの言葉のとおり大豊作になり、皮肉な事に米余りの騒動が持ち上がりました。

さて、私は大正12年生まれで、今年六回目の年男を迎えます。私が小学校へ入った時に満州事変が勃発し、その後昭和20年の敗戦までは戦乱続きの年月であり、何もかも不足するという時代を経て高度成

長期に入り、バブルの発生からその破綻を経て今日に至ります。

ところで、これは私の独断の見解ではありますが、我が国が高度成長を遂げた原因は、(1)戦後急速に人口が増加したこと、(2)その人々の質が道徳的にも教育的にも大変良質であったこと、(3)戦争末期にアメリカ空軍機の爆撃により生産施設がほとんど壊滅的な打撃を受け、わずかに残った機械が戦後の賠償に持ち去られたこと。そして、その後日本が新たに設備投資をする時期がちょうど戦争により長足に進歩した技術が、民需に反映する時期に当たったということです。

従って、今後21世紀の我が国のことを以上の観点から考えますと、必ずしも明るい展望が期待できるとは思えません。我々は今こそお互いに力を出し合って今日の繁栄を持続し、次の世代に対し安心と豊かさを残すように知恵をしばり努力を重ねていかねばならないと思います。

これまで公私ともに数えることができないほど沢山の方々のお力に助けられてきました。そのご恩に報いるために、今後残された人生を、いつまで生きることができるかわかりませんが、命の続く限り微力ながら尽くして参りたいと考える昨今であります。



## 夢

石 織 (株)  
専務 河島 義隆

皆様あけましておめでとうございます御座居ます。

年末に「年男大いに語る」の原稿の依頼を受け、さて何を書こうと思案していたのですが、年末年始にかけて私の身の廻りにあった事と、又、感じた事を少し綴ってみたいと思います。

私は昭和10年生まれの亥年で又還暦も迎えるという二重の大きな節目の年でもあります。年末、神社の前を通ると平成7年、昭和10年生まれは還暦と看板に記載してあり、ああいよいよ来年は還暦か、でも赤いチャンチャンコは着ないぞと思っていました。

11月の初旬、町内からの回覧板で、町内で明年の厄年の人は一緒に近くの神社で厄払いの御祓いがあると通知があり、早速申込みをしました。当日の朝、清らかな気持ちで御祓いを受けました。そして神主様より還暦は60年で再び生れた年の干支に還り生まれかわることだと言うお話があり、何か年寄りめいた気持ちが一変、平成7年は改めて生まれかわった気持で、がんばるぞと心に誓ったわけです。

十二支の物語りは昔神様が動物達に「元旦の朝挨拶に来た者の内十二番目迄に1年ずつ動物の王様にする」というお布令をだしたところ、早朝牛の背に乗って来た鼠が門に入る直前に牛の背からとび降り一番となり、牛が二番目、遅れてしまい門が閉まっているとも知らずに猪突猛進してきた猪が門におち当って目を廻している間に壊れた門の穴から先に犬が入り猪が最後になったという話を聞き、猪は猪突猛進ばかりで思慮の足りなさを表わしていると思いますが、今年は終戦後50年、又21世紀直前の大きな節目の年で、我々の流通業界も激動の年である事は間違いないと思われませんが「猪突猛進」をするのではなく、身の廻りをよく見て前進したいものだと思っております。

話は変わりますが年末年始にかけて妻と京都、萩、秋吉台、津和野への旅に出かけましたが、おかげ様で天候にも恵まれ各地の名所旧跡を楽しく見聞する事が出来ました。とりわけ萩では、百数年前にこの辺びな山村で開かれた明日の日本の国造りという大きな夢をもって活躍した明治維新の先覚者の吉田松陰や高杉晋作、木戸孝充、伊藤博文ら傑出した人々の話をあらためて聞き、人間夢を持たないと人間としての魅力はないなあと感じた次第です。

それに引きかえ、我々の現状はどうでしょうか。

数字々々、数字を追求するあまり商売を行う上で一番重要な人間性の魅力無くした販売員が多いのではないのでしょうか？

「とにかく売れば良い」などと貧困なパーソナリティしか持っていないのではないのでしょうか。業界の現在の衰退は売上拡大の追求を至上令として走り、夢みる余裕をなくし、人間的な豊かさを持っていな



### ふる里の味

(株)マツモト  
取締役営業本部長 **大野木 義人**

今年はどうな年なんだろう、景気はどうなっていくのだろうか、政治は何をしてくれるんだ、いつもは百円の賽銭を五百円ほうり込んで手を合わせてみても世の中の流れは、そう簡単には変わりません。今、平成7年に変わったけど、それは単に人間自ら作った暦のページが、めくられたにすぎません。やはり我が社の発展は他の要因に左右されることなく荒波に揉まれながら進まねばなりません。

さて、難しいことは専門の諸先生にお任せして、私の田舎の美味しい自慢話をしたいと思います。

能登有料道路の終点を右折して249号線を珠洲方面に車を走らせると、やがて右手の海の中に、ボラ待ち矢倉が見えてきます。このボラと言う魚は金沢ではあまり食されません。このきれいな海で育ったボラは、あの泥くさはなく高価な取り引きがされております。刺身にすると鯛とよく似た色をしております。

やはり炙って、なんば味噌を付けて味噌が狐色になったのを、ごはんの上のにせ熱い湯をかけて食べるのが旨い。カラスミはここでは作っていない。

その入江の一番奥を右に回って坂を下ると、我がリゾート地が海と緑の中に見える。

もずく、これは手軽に取れてどこにでもある。まず熱い味噌汁を作る。碗にもずくを入れる、そこに汁を注いで熱いうちに食べる。スーパーの塩したもののは出来ない。かき貝、殻付きを焼いて食べるのも旨いが、殻付が手に入らないのと殻が飛んで台所ではとても焼けない。手軽な美味しい食べ方が有るので作ってほしい。銀紙を一尺角ぐらいに切って、その上に広めのだし昆布をひき、そこに、かき貝を並べて焼くと、たいへん旨いのがすぐ出来る。殻から剥いてすぐレモンを搾って、これもたまらない。いつかパリの道端で売っているのを、その場で料理してもらい食べた味が忘れられない。ちょっと小振りでスマートでパリ風な形が思い出される。

ある名の知れた割烹屋さんで壺焼きを注文して出てきたのを見てガッカリした事がある。千里浜で焼いている、サザエと違って何か工夫がほしかった。

サザエは必ず背に砂を持っている。背割りして砂を

い人が増えてきたと言っても過言ではないと思います。

新しい年が始まったのです。先ず「夢」を見ることからスタートしたらどうでしょうか。

魅力的な夢のある人間であれば、売る側も買う側もきっと楽しくなると思います。

お互い夢をもってがんばりましょう。

出し、細かく切って殻に詰め直す。この際注意することは、シッポを大きめに切り先に入れておく事だ。みりん、しょうゆ、砂糖、あるいは味噌を入れてグツグツ5分ほどゆでるとビールのつまみには最高だ。その割烹屋では私の教えた形で出している。実に素直なチーフだと思う。

えぐり貝、私も正式な名は知らないが、辛くて、ちょっと苦みが有って例えようのないうまさだ。加賀屋で以前、さかづきの底に、ほんのちょっぴりの量が出た事があったが、今ではほとんど、お目にかかれない。

フジ貝、たいへんきれいな貝で、磯の香りは絶品である。あまり市場には出てこないで知らない人が多い。冬場に穴水に行くことが有ったら運がよかったら魚屋に出ているときがある。食べ方は、酒蒸しか味噌汁が一番だろう。遅れたが先程のえぐり貝は、ぬた合え以外は食べてほしくない。えぐりがすごいからだ。

真珠貝、アコヤ貝の仲間だと思うが、焼いて口に含むと、歯でかんだ一瞬貝柱からにじみ出る甘さは、焼きホタテとは比べものにならない瞬間の旨さだ。ごくまれに小さな真珠玉が出てくることがある。私も二度ある。

しただみ、こいつは今でも沢山とることが出来る。潮の引いた朝か夕方がいい。姿は、サザエの小さなものと思えば間違いない。海水と一緒に鉄鍋に入れて沸騰したら火を止める。ちょっと蒸して鍋から出して針で一つ一つ抜いて、ポン酢で食べる。これも酒の肴だ。

さて、グルメな諸先生方のこと、口の中が唾でいっぱいになった事だろう。一度飲み込んでほしい。

話は変わるが、タイトルの横には、できれば私の顔より、この豊かな故郷の自然を写した風景を入れるべきではないだろうか。

続けていくとしよう。イサザは皆さんよく知っていると思う、近くの川でよく取った思い出がある。ナマコ、これもなじみ深い。ニシボ、マガリとなると、ほとんどの人が知らない。図鑑でしらべて紹介すれば解かると思うが、芸名ではどうにもならないだろう。近代化魚介類研究会を作る提案をしたい。

ナマコは、ひらいに行くと言うし、イサザは一合二合と量をはかる。踊り食い、あれは遊びであって料理の一品に加えてはならない、イサザの悲鳴が聞こえてきそうだ。

まだまだあるのだが、かなりオーバーしてしまっ

たようだ。いつか、とっておきの骨酒の作り方を、お教えしたいと思う。

最後に、これは小生、田舎者の味であって諸国万



### 乙亥の平成7年を迎えて

(株)堀川商店  
専務 **堀川 善次**

私は昭和22年生まれで、今年で「年男」を4回迎える48歳です。私達の年代は、第一次ベビーブームで年代人口としては一番多く、少年時代よりいろいろな意味で、競争の中で生きてきました。「年男」としては2回目の24歳の頃は、社会人として6年目で少し仕事が覚えられ、仲間達と将来の仕事に対しての「夢」や「社会動向変化」を話し合い、「自分の考え方」や「信念」を固めていきました。もちろん、色々な本や、勉強会等への出席をし、今から考えると一番勉強した頃だと思います。3回目の「年男」を迎える頃には、自分の考えももっと変化をしてきました。

それは「時流対応」で、社会や人間の考えがその

民の味に通じるものでないことを記して終わりとしてほしい。旨いものといっしょに、どんどん不景気を飲み込んでほしい。

時その時変化をする、それに自分がどう合わせるかが問題だと考えていました。

またそれを、自分に取り入れるか問題だと思っていました。社会環境の変化が、自分達の考える以上に早く変化をしている。その事をわかっていながら、なかなか実践できませんでした。

4回目の「年男」を迎える最近では「行動こそが第一」と思い、自分で「実践」、「行動」、「トライ」をし、状況に合わせて変えていこうと思っています。この勇気が一番だと思っています。「会社」が、今の時代に合った業態であるか？卸している商品が合っているか、いろいろな観点からもう一度考え直しをし、早く対応をしなければならぬと思っています。

私は、「非は自分にある」と考えています。自分の思いと違うのは、他人のせいではなく、かならず自分に問題があるからだと思うようにしています。この考え方にそって、今後の行動指針としていくつもりです。



### DASH!



(株)川助  
総務部長 **東 文雄**

1995.1.8 Sun 内灘砂丘に立つ。金沢医科大地点から金沢リンクスまで片道5km、往復60分。ここが私のジョギングコースです。真冬には珍しい快晴・無風の小春日和。砂の感触を足裏で味わいながら軽

く駆ける。このコースを2年前に毎日欠かさず1年間走った記録がある。冬の雪、春の砂塵、雨、風、夏の太陽、朝日、夕日……。金沢市内にも、犀川河川敷コース、天神橋から奥辰辰山健民公園に至る山岳コース、小立野・寺町丘陵コース等があり、走る人を魅了する。これまで体験したのは、早稲田名物100kmハイク、青梅マラソン30km、南アルプス山麓マラソン20km、委員会視察研修地の札幌大通公園ならびに広島平和公園でのジョギング、昨秋の金沢市民マラソン10kmと内灘町駅伝大会です。私のペースは

1km5分です。「不老長寿の秘訣は血管の老化防止にあり、毎日継続して行う運動と栄養が大切である」。これは有松中央病院・吉田院長の言葉ですが、ジョギングは運動効果は勿論、走りながら考えたりアイデアが閃くというすばらしい効果ももたらします。

ところで、私達の頭の中に自己の行動をコントロールする「スイッチ」があるのをご存知ですか？

ある講演で、滋賀ダイハツ(株)の後藤会長が図のような「めいげんそことば」を紹介された時、これこそ「スイッチ」を切り換える魔法の言葉だ!と大いに感銘を受けた。



### めいげんそことば

明元素言葉  
積極・肯定・陽転

- 無笑している
- 愚問だ
- できる・来た
- 金がある
- まだ若い可憐だ
- 努力します・試みだ
- 早せだ・元気だ
- 楽しい・きれい
- 未読(うん)
- やれる
- アゲル・おしい
- 美しい・すまんだ
- やさみ(う)
- おもしろ・利口だ
- 頑張ります



### あんびょうたんことば

暗病反言葉  
消極・否定・陰転

- 混乱思考
- 死し・あられ
- 狂しい・まやかし
- ぞろぞろ
- すぐ内閣だ
- だんだんかたまり
- まさか・とんちん
- と天ない
- のつしよつ・んがた
- 不埒だ・太くた
- マヤクダ
- 困った・苦しい
- だいたい
- 失敗した
- ひたすら
- そのせいだ



以来私は、「スイッチ」を事有る毎に「めいげんそことば」の方に切り換える訓練をしている。

さて、昨秋、私はある感動的体験をした。それは赤蜻蛉の群れの中を駆けた事です。家の近くは大野川沿いの田圃です。晩秋まで暖かく、農道には無数の赤蜻蛉が羽を休めており、一斉に舞い上がる中を駆け抜けて行った。その時私は彼らに友達のような親しみを覚えた。この秋再会する時、どんな私に

なっているだろう？

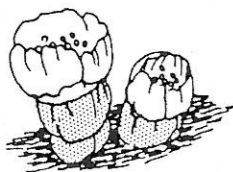
日々新たなダッシュの連続で目標を達成したい、そんな期待を込めてデザインしたのが、タイトルの「DASH! '95」です。皆様よくご存知の「いいね金沢」、私はこのキャッチフレーズが好きです。そこで私もひとつ。——皆様と共に新年の好スタートを切れたことを喜びつつ、新たな飛躍を祈念して、「DASH! '95 金沢問屋センター」。——(1995.1.15)

# 初市風景

金沢問屋センター繊維同業会（山田治作会長）吉例の初市は、1月6、7日の両日、各社会場にて行われた。

婦人服をみても、冬物バーゲンの期間を延ばす販売店が増えており、春物の投入が2~3月へと遅れる傾向が出ている。これまでのベーシックで固く重いものから、ラフなもの、軽くて柔かいものへと好みが移り、プリティコンサバ、イタリアンティスト、天然素材のものに人気が出そうである。

又、呉服の方はやはりフォーマル中心に動くようで、消費者の目が肥えてきていること、もはや流行語となってしまった価格破壊の影響などから、低価格商品ではなく「良いものを安く」という姿勢が求められている。



## 平成7年度の経済見通し



金沢信用金庫問屋町支店 支店長 杉本 勇喜男

謹んで新年のご祝詞を申し上げますと共に、日頃のご愛顧に対し厚くお礼申し上げます。

政界再編、猛暑、円高、価格破壊、イチロー効果、いじめ苦自殺、等々94年を振り返らせる言葉が沢山ありましたが、皆さんの口から最も多く出た言葉は何と言っても「不況」という言葉ではなかったかと思われま

す。「平成大不況も後半より回復に向う」という昨年度の見通しでした。事実、政府は昨年9月の月例報告で、「景気が漸く回復段階に入った」との見解を表明、経済企画庁も年末のミニ経済白書で、ややトーンダウンはしているものの、「緩やかに回復している」と発表しました。

地元北陸では、日銀金沢支店も同様の認識を示し、北陸財務局でも昨年11月実施の管内三県景気予測調査を発表、現状の景気判断指数は▲1.2であり、前回8月調査時の▲16.6に比べ大幅に改善されているとしました。同調査は、管内379社の経営者による7年1月以後のプラス見通し、製造業での受注増、鉱工業生産指数の3ヶ月連続前年同月比増、新車販売6ヶ月連続増等の管内経済動向より、はっきりと景況は上向きになってきたとみております。

以上のような現況より、平成7年度の景気については、各機関の発表や実感から、全体としては緩やかながら好転しているのが現状で、お先真っ暗だった昨年同時期に比べれば、やや明るさが戻っており、今年は個人消費と設備投資を軸に自律回復の基盤が整うとの期待が強まっています。

昨年の猛暑と所得減税は確かに景気浮揚のきっかけにはなりました。しかし、この状態が一本調子に続いて、かつての様な好況になるとは思えません。個人消費も設備投資も自律回復力は極めて弱く、本格回復には程遠いと思われま

す。景気の回復を阻む最大の障害は円高の圧力です。為替相場は今年の春頃まで1ドル95~100円の幅の中で変動してゆくことになるでしょう。平成7年度も円高基調が続くとすると、日本企業の海外シフトに益々拍車がかかるに違いありません。それは設備投資の海外流出を意味します。

日本興業銀行の調査によると、7年度の設備投資は全企業平均で3.7%減、製造業だけでは6.7%減となる見込みで、戦後初めて4年連続のマイナスとなる見通しです。加えて産業界ではバブル期の過剰投資が祟って、平均2割前後の過剰設備を抱えていると

言われています。この為、景気が底入れしたからといって、設備投資が俄かに回復する条件にはありません。

次に、海外への生産拠点の移転に伴い中国などで現地生産が本格化すると、発展途上国などから低価格製品や部品の輸入が急増し、国内市場で所謂「価格破壊」現象が進行します。価格破壊が進めば物価は値下がりし、将来は個人消費の回復要因になる筈です。しかし過渡期のここ1~2年は価格破壊の直撃を受ける地場産業や中小企業が対抗力を失い、整理淘汰を余儀なくされるマイナス要因の方が大きいとみておかねばなりません。

この様にみえますと円高は容赦なく国際分業を促進することが理解できましよう。早い話が、日本人を1人雇う賃金(平均月額40万円)で中国人80人(平均月額5千円)を雇えるとなれば、中国へ進出してものを作った方が有利になります。日本企業の海外シフト、特に製造業のアジア進出は今後も一層進むに違いないと予測されます。その結果国内の雇用吸収力は間違いなく低下するでしょう。

労働省の調べによると、2000年までの雇用計画では全体の46%の企業が「現在より減らす」と答えており、雇用不安が更に拡大し、「失業者200万人時代」が常態化することになりそうです。最近特に注目されるのは大卒者の就職率低下であり、文部省の調べによると昨年は戦後最低を記録しました。

雇用不安が若年層に及ぶ情勢のなかで、今年は「賃金」が価格革命の対象になることは確実で、春闘方式による賃上げは重大な転機を迎えることになり、間もなく賃金の上らない世の中がやってきます。賃金という所得が増えない限り、個人消費の回復に弾みがつくことは期待できないのです。ましてや日本経済は70年中葉に、過剰生産力を持つ程に成熟し、また消費も飽和状態となって、成長率もここから一桁台に転換しました。日本興業銀行の7年度実質経済成長率(GDPベース)は1.6%止まりという予想であり、1%台の経済成長では、景気回復を実感するには至らないでしょう。

従って現在の景況がほぼ正常だと考え、この程度の経済展開の中で雇用を減らさずに適正利益をあげる企業体質をつくるのが重要であると思

います。慎重すぎる7年度の見通しでしたが、まだまだ景況厳しき折、組合員皆様方の益々のご発展を祈念し併せて本年もご愛顧賜ります様お願い申し上げます。